



校長室だより やる気みなぎる『楽しい』学校



# きまがせ

令和6年9月18日  
野田市立木間ヶ瀬小学校  
校長 松藤 有里

昨日は、古くから「中秋の名月」として愛でられてきた、十五夜でした。9月に入ってからも暑い日が続き、季節感のずれを感じる今日この頃ですが、子どもたちは、元気いっぱいです。「暑さ寒さも彼岸まで」というように、来週くらいには、涼しくなるといいですね。



9月14日（土）15日（日）に野田市役所で「野田市自然科学作品展」が開催されました。展示された作品は、どれも一人ひとりが熱心に取り組んだ成果がまとめられていました。本校からも3点出品しました。その中から、4年生が科学工夫作品の部で金賞に輝き、県の作品展に出品することになりました。

今回、作品展に出品されている各校の代表作品を見ると、やはり、「学びたい！」「知りたい！」とその子の「やる気」が感じられるものばかりでした。中には、数年にわたって、研究が深まっていっているものがあったり、調べたことを実際に試してまとめていたり、感心させられるものばかりでした。

本校の入賞作品は、日頃から興味関心をもって家庭学習でも取り組んでいる「深海の生き物」を上手に取り入れた「磁石ゲーム」です。審査会の中では、「作者の『好き！』という思いが詰まった工作だ」という点が素晴らしい。」という声があったと伺いました。「好きこそ物の上手なれ」ということわざの通り、好きなことから、楽しく学びを  
広げていくことは、とてもよいことですね。

そんな風に「やる気」をもった子どもたちが、どんどん増えていくことを願っています。



また、昨日のホームページでも紹介しましたが、昼休みや放課後、好きなことを披露して、みんなを楽しませている高学年の児童の姿がありました。昼休みには、周りにいたクラスメートが「自分で曲を作っていて、すごいんだよ。」と嬉しそうに教えてくれました。友達の良さを笑顔で伝える様子がとても微笑ましかったです。「自分を認めてくれる人がいる」ということは、自己肯定感を高める上で大事なことです。

「やる気」をもって取り組んだことを、どんどん認めて、褒めてあげたいですね。